

クリスマス

伊藤まさ作 小川政弘脚色 聖誕劇 「言葉は人となりて」

(音楽)

ナレーション 男 初めに、言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。この方は、初めに神と共におられた。すべてのものは、この方によってつくられた。つくられたもので、この方によらずにできたものは一つもない。この方に命があった。この命は人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。…すべての人を照らすそのまことの光が夜に来ようとしていた。
(ヨハネの福音書 1:1-5,9)

第1幕 預言者たちの夢

預言者 さて、先ほどの話の続きをしようかの。我らが遠いいにしえの先達イザヤを通して、神はこう言われたのじゃ。ほれ、この書に——「やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。——一人のみどり児が私たちのために生まれる。一人の男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は不思議な預言者、力ある神、永遠の父、平和の君と呼ばれる。」

女1 一体それはいつのことなのでしょう。もう私は疲れ切って、生きる力を失いました。金持ちや権力のある者たちに苦しめられて、我々貧乏人には、幸福に生きる権利なんてこれっぽちもありやしません。神様は不公平なお方だと思いたくなります。本当になんのために生きていることやら…。ああ——。

女2 そのお方は、どこにお生まれになるのですか？ 神様はどこにそのお方をお示しになられるのですか？

預言者 うむ。それはな、預言者ミカがこう申しておる。(巻物を開き)ええと、あ、ここじゃ。「ベツレヘム、エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは昔から、永遠の昔からの定めである。」とな。この聖なる書によれば、メシヤ、キリストなる救い主は、ベツレヘムでお生まれになるということじゃ。それがだれであるか、いつであるのか、それはワシにも分からん。神様だけがご存じじゃ。

(音楽) (賛美歌「久しく待ちにし」)

男1 全く、生活は苦しいし、悪いことははびこり放題。貧乏をしながら正直に暮らしているおれたちだけがバカを見る世の中だ。ああ早くそのメシヤ様が来てくださらんものかのう。

第2幕 マリヤの家 (ルカ 1:26-39)

ナレーション 女 それから更に数百年の時が流れた。暗黒の地に住む民のメシヤ待望の願いは、ローマ帝国の支配の下で、ますます切実となった。そしてついに“神の時”は満ちた。

ある日のこと、天使ガブリエルが神から遣わされて、ベツレヘムから 150 キロほど北のナザレという、ひなびたガリラヤの町の一処女のもとに来た。この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなずけになっていて、名をマリヤといった。

(効果音) (戸外。小鳥のさえずり)

マリヤ ああ、今日もいい天気。ヨセフが今立てている村外れの長老様のお屋敷の工事もはかどるわ。今日も一日ヨセフが無事でありますよう、神様にお祈りをしましょう。

あ！こんなに明るくなって…。この光はどうして？

ガブリエル (エコー)(かぶせて) 恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます。

マリヤ(モノローグ)「おめでとう」って、わたしが、どうして？ 結婚式はまだだし、それにこのお方はどなた？ もしや…。

ガブリエル (エコー) 怖がることはない、マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。ごらんなさい、あなたは身ごもって男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。その子は優れた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。

マリヤ どうしてそのようなことになり得ましょう。私はまだ男の人を知らないのに。

ガブリエル (エコー) 聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたを覆います。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女と言われていた人なのに、今はもう6か月です。神にとって不可能なことは一つもアリマセン。

マリヤ 本当に、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおりこの身になりますように。

マリヤ(モノローグ) こんな、夢のようなことが私に起こるなんて…。あのイザヤの書の中の乙女が私であったなんて…。そうだわ、こうしてはいられない。早くエリサベツおばさんに知らせなくちゃ。おばさんにも赤ちゃんが生まれるなんて。この私が神のみ子の母になるなんて！

第3幕 ヨセフの家 (マタイ 1:19,20)

ナレーション 女 マリヤはヨセフと婚約していたが、まだ一緒にならない前に、聖霊によって身重になった。夫ヨセフは正しい人であったので、彼女のことが公になるのを好

まず、ひそかに離縁しようと決心した。

ヨセフ(モノローグ) なんとしたことだ！ あのマリヤが身ごもったとは！ まだわたしとは婚約の身、ほかに男はないと信じていたのに。——ああ、マリヤ！

み使い (エコー) ダビデの子、ヨセフ。恐れなくて、あなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っている者は、聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。

ヨセフ(モノローグ) おお、これはなんとしたことか。久しぶりで夢を見た。いや不思議だ。これは夢ではない。確かに今のは主の使いだ。こんなにはっきりと耳に残っている。今まではどうしようかと悩み抜いたが、久しぶりに身も心も軽くなった。早くマリヤを迎える用意をしよう。マリヤを喜ばせるんだ！

第4幕 野原で (ルカ 2:1-20、ヨハネ 3:16)

ナレーション 女 それから数か月後、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。それで人々は皆、登録のためにそれぞれ自分の町に向かっていった。ヨセフもマリヤを連れて、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上っていった。ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤ発気が満ちて、男子の初子^{ういご}を生んだ。それで、布にくるんで、飼い葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

(音楽) (賛美歌「牧人羊を」)

ナレーション 女 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。

み使い (エコー) 恐れることはありません。今、私は、この民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布に包まって飼い葉おけに寝ておられるみどり児を見つけます。これが、あなたがたのための印です。

(音楽) (賛美歌「神のみ子はこよいしも」)

ナレーション 男 かくして、言葉は人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られた一人子としての栄光である。この方は、恵みとまことに満ちておられた。神は、実に、その一人子をお与えになったほどに、世を愛された。それは、み子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠の命を持つためである。

(音楽) (賛美歌、高まって——。)

<完>